

【学力向上フロンティアスクール用中間報告様式】(中学校用)

都道府県	石川県
------	-----

学校の概要(平成15年4月)

学校名	川北町立 川北中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数 14
学級数	2	2	2	0	6	
生徒数	47	49	65	0	161	

研究の概要

1. 研究主題

自ら進んで学習に取り組む生徒の育成 ~ 確かな学力の向上をめざして ~
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年全教科

特に、数学科 - 少人数指導(生徒の理解に差が出やすい教科である)

体育科 - TT(生徒の運動能力や興味・関心に幅のある教科である)

(2) 年次計画

平成 14 年 度	<p>テーマ</p> <p>自ら進んで学習に取り組む生徒の育成 ~ 確かな学力の向上をめざして ~</p> <p>仮説</p> <p>本校では、平成11年度から総合的な学習を中心として「自ら進んで学習に取り組む生徒の育成」をテーマとして研究を進めてきた。今年度、学力向上フロンティアスクールの指定を受け、副題として「確かな学力の向上をめざして」を設定した。</p> <p>生徒の実態の把握をもとに、「基礎・基本の定着」、「指導体制の工夫」、「指導方法の工夫」を柱として研究を進めることによって、自ら進んで学習に取り組む生徒を育成し、確かな学力を身につけることができると考えた。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>指導体制の工夫</p> <p>個に応じた指導を充実させるために、可能な範囲で少人数の生徒に対する学習指導が行えるように、必修教科では全学年の数学で少人数指導を、3年生体育でTTを取り入れた。</p> <p>また、選択教科について以下のように積極的にコースを開設した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年生 選択 (国、数、理、英) 選択 (音、理、体、社)</li> <li>・ 3年生 選択 (国、社、数、英) 選択 (体、理、家)</li> <li style="padding-left: 40px;">選択 (国、社、音、美)</li> </ul> <p>また、総合的な学習では各学年の全教員で指導にあたる体制をとった。</p>
--------------------	---

## 基礎・基本の定着

「読み・書き・計算」を意識した指導

- ・朝自習でミニ読書、漢字の書き取り・読みとり、数学の計算、英語の単語や簡単な文章を取り上げたプリントにより基礎の定着を図る。
- ・各教科において教科書を読ませたり、大切なところに線を引かせたり、自分の考えを簡潔に書いてまとめることを授業の中で多く取り入れる。また、各教科の実践を交流しあう。

本校生徒の実態を意識した指導

- ・授業で積極的に発言したり、うまく自分を表現できない生徒が多いので、和やかな雰囲気作りやグループ活動による指導を試みる。
- ・家庭学習が定着していない生徒も多いので、宿題や課題の与え方の検討を行う。

指導要領の内容の定着を意識した指導

- ・導入の工夫、ワークシートの与え方、パソコンの利用、フラッシュカードの活用、反復練習の仕方など各自で実践したことを交流する。

## 指導方法の工夫

### ア．評価の改善に向けた研究

評価の考え方の共通理解を図る。

- ・目標に準拠した評価および個人内評価の重視
- ・指導と評価の一体化
- ・客観性と信頼性のある評価

評価方法改善のための具体的取組

- ・教科別評価規準表の作成
- ・観点別評価の評価方法の研究
- ・評価の蓄積と通知票の評定の研究
- ・指導方法の改善を目的とした授業交流の実践

### イ．数学科における少人数指導の実践

等質集団編成を基本に、単元に応じて課題別や習熟度別のグループ編成をしたり、TTを取り入れるなど多様な授業形態・指導法を取り入れている。また、この数学科での実践を個に応じたきめ細かな指導の中心として位置づけ、研究授業や授業整理会を全体会で行うことを通して、他教科への指導改善につなげるよう努力している。

### ウ．選択教科の実践

昨年度から準備してきた年間指導計画をもとに、今年度の選択教科を開設した。ガイダンスとして、生徒対象のオリエンテーションを開き、各教科担当者から授業内容についての説明を行った後、希望をとった。また、実践しながら来年度の年間指導計画の改善に向けて実践記録を残している。

### エ．総合的な学習の実践

本校では、平成11年度より準備を進め、平成12年度は1年生のみ実施、平成13年度は1、2年生で実施し、今年度より全学年で本格的に実施している。本校の総合的な学習は「手取川学習」と「ヒューマン学習」の2つに分けて取り組んでいる。「手取川学習」は、ふるさと学習、環境学習、メディア学習などで、本校自作のワークブックをもとに調査研究活動をしている。「ヒューマン学習」は、自己の

生き方や進路を考える学習で、福祉、平和、国際理解、進路を中心に学習している。

今年度は主に評価方法についての研究を進めた。

#### オ.『出会いふれあい感動授業』の実践

この『出会いふれあい感動授業』は、外部から専門分野のゲストティーチャーを招く特設授業のことである。通常の授業では経験できないような内容を、その道の専門の方に直接教えてもらうことにより、「その分野に対して興味関心を高める」「将来の夢や職業の実現の手がかりとする」また、「教師自身が指導法改善の一助とする」等を目的として実施した。今年度は、以下の通りである。

- ・ 1年生美術（日本画家：本校OBで日展会友）
- ・ 2年生理科（金沢工業高等専門学校教授と学生2名）
- ・ 3年生道徳（平成14年度文科省「心の先生配置事業」：  
静岡常葉学園大学助教授）

#### カ.意識・実態調査アンケートの実施（生徒・保護者・教員）

学習に取り組む姿勢や家庭での学習習慣など、学校生活や家庭生活についてのアンケートを実施し、生徒や保護者の意識や実態を把握するよう努めた。また、教員に対しても同じ項目についていくつかアンケートを実施したことによって、生徒との意識のずれが生じている部分があることも発見でき、指導の在り方を問い直すことができた。今後、このような調査を継続的に実施し、よりよい指導の改善に向けて研究していく予定である。

平成  
15  
年  
度

#### テーマ

自ら進んで学習に取り組む生徒の育成  
～確かな学力の向上をめざして～

#### 仮説

本校では、平成11年度から総合的な学習を中心として「自ら進んで学習に取り組む生徒の育成」をテーマとして研究を進めてきた。平成14年度、学力向上フロンティアスクールの指定を受け、副題として「確かな学力の向上をめざして」と設定した。

生徒の実態の把握をもとに、「指導体制の工夫」、「基礎・基本の定着」、「指導方法の工夫」を柱として研究を進めることによって、自ら進んで学習に取り組む生徒を育成し、確かな学力を身につけることができると考えている。

#### 研究内容・方法

##### 指導体制の工夫

きめ細かな指導を充実するために、全学年の数学で少人数指導を取り入れている。また、1年生の体育でTTを取り入れ実施している。

選択教科について下記のように積極的にコースを開設している。

- ・ 2年生 選択（国、数、英）選択（理、体、社）
- ・ 3年生 選択（社、数、英）選択（国、理、英）  
選択（国、理、体）選択（社、音、美）

総合的な学習には複数の教員が指導にあたる体制をとっている。

## 基礎・基本の定着

### 「読み・書き・計算」を意識した指導

・各教科の授業や朝自習でのミニ読書、漢字の書き取り・読みとり、数学の計算、英語の単語や簡単な文章を取り上げたプリントにより基礎の定着を図っている。

### 本校生徒の実態を意識した指導

・授業中の「集中力」を高めるために、定期的の実態把握と指導を行っている。

・授業で積極的に発言したり、うまく自分を表現できない生徒が多いので、和やかな雰囲気作りやグループ活動による指導を試みている。

・家庭学習が定着していない生徒も多いので、宿題や課題の与え方の工夫を行っている。

・小、中学校でお互いの授業を公開し交流する中で、小中連携のできる内容を模索している。

### 指導要領の内容の定着を意識した指導

・研究授業を通して導入の工夫、ワークシートの与え方、パソコンの利用、フラッシュカードの活用、ドリルの仕方など各自で実践したことを交流する。

## 指導方法の工夫

### ア．評価の改善に向けた研究

評価の考え方の共通理解を図る。

- ・生徒が生きる指導が生きる評価 - 指導と評価の一体化
- ・客観性と信頼性のある評価

評価方法改善のための具体的取り組み

- ・評価規準表に基づいた学期ごとの評価計画の作成と実践
- ・観点別評価の蓄積と通知票の評定の研究
- ・指導方法の改善を目的とした授業交流

### イ．数学科における少人数指導の実践

1 C 2 T の習熟度別グループ編成を基本に、単元・題材に応じて課題別や習熟度別の3グループ編成をしたり、T T を取り入れるなど多様な授業形態・指導法を取り入れている。数学科での実践を、個に応じたきめ細かな指導の中心として位置づけ、研究授業や授業整理会を通して、他教科への指導改善につなげるよう努力している。

### ウ．選択教科の実践

本校の生徒の様子を大切にしながら年間指導計画をもとに、今年度の選択教科を開設している。ガイダンスとして、生徒対象のオリエンテーションを開き、各教科担当者から授業内容についての説明を行った後、希望をとった。来年度の年間指導計画の改善に向けて実践記録を残している。

### エ．総合的な学習の実践

本校では、平成11年度より準備を進め、平成12年度は1年生のみ実施、平成13年度は1、2年生で実施し、平成14年度より全学年で本格的に実施している。本校の総合的な学習は「手取川学習」と「ヒューマン学習」の2つに位置づけている。「手取川学習」は、ふるさと学習、環境学習、メディア学習などで、本校自作のワークブッ

クをもとに体験・調査・研究活動をしている。「ヒューマン学習」は、自己の生き方や進路を考える学習で、福祉、平和、国際理解、進路を中心に学習している。

平成15年度は確かな学力の視点から、本校の実践を検証し位置づけを確認した。

オ.『出会いふれあい感動授業』の実践

外部から専門分野を持つゲストティーチャーを招く特設授業のことである。通常の授業では経験できないような内容を、専門の方に教えてもらうことにより、「その分野に対して興味関心を高める」「将来の夢や職業の実現の手がかりとする」また、「教師自身が指導法改善の一助とする」等を目的として平成14年度より実施している。今年度は、以下の通りに実施した。

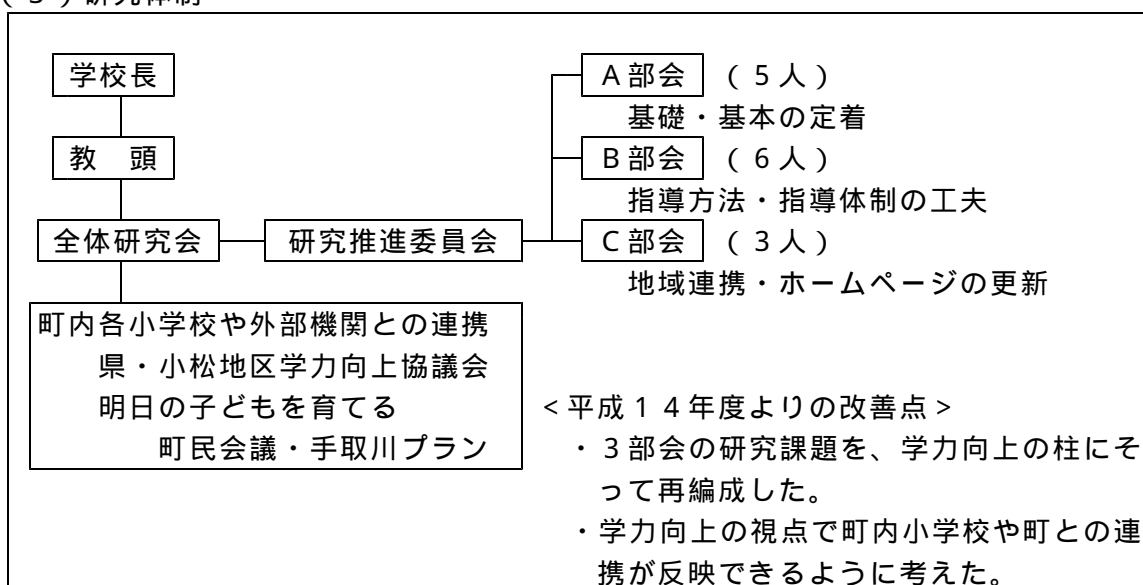
- ・ 1年生美術（日本画家：本校OBで日展会友）
- ・ 2年生理科（北陸先端科学技術大学院大学生）
- ・ 3年生理科（ワシントン大学助教授）

カ.生活と学習に関する意識・実態調査実施（生徒・保護者・教員）

平成14年度より家庭及び学校生活や学習についてのアンケートを実施し、学習の姿勢や学習習慣などについての意識や実態を把握するよう努めている。教員との意識のズレを指導に生かすよう努力している。今後も調査を継続的に実施することで、指導の改善につなげていく予定である。

平成 16 年 度	テーマ	平成15年度に同じ（予定）
	仮説	平成15年度に同じ（予定）
	研究内容・方法	検証期、充実期、総括期ととらえ、平成14年度の研究をさらに深め、実践を進めまとめていく予定である。

(3) 研究体制



## ・平成15年度の成果及び課題

### 成果

1C2Tの習熟度別グループ編成を基本に、単元・題材に応じて課題別や習熟度別の3グループ編成をしたり、TTを取り入れるなど多様な授業形態・指導法を取り入れることができた。生徒の自己評価による希望と教師の助言によるコース分けは、少人数の趣旨を理解してより良い方向で定着してきた。また数学科での実践を、個に応じたきめ細かな指導の中心として位置づけ、研究授業や授業整理会を通して、他教科への指導改善につなげるようになってきている。

研究全体としては、生活と学習に関する意識・実態調査に基づき、「集中力」アップに定期的に取り組んだり、「読み」「書き」「計算」の力の向上に授業や朝自習を通して取り組めたことは大きな成果である。また、本校の実践を「確かな学力」の学力の視点から見直し確認できたことは、今後の研究の基盤になったと考える。さらに、町内3小学校と授業交流し、小中連携を模索し始めたことは、大きな意義があると考えられる。

### 課題

数学科の少人数指導では、各単元での効果的な授業形態の工夫、教材開発や具体的な評価方法の工夫などが継続的な課題である。

研究全体としては、全教科を通して「個に応じたきめ細かな指導」を授業の中でどう実践するか。また指導の結果「学力の向上」をどう評価するか。そして、評価したことをどう指導に生かしていくか。さらに小中の連携を意識した指導を研究していくことなど課題は多い。

## ・学力把握のための学校の取組について

- ・基礎学力調査（石川県教育委員会主催）の実施と分析
- ・生活と学習に関する意識・実態調査の実施と分析

## ・フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・今年度の研究を冊子にまとめ、学力向上フロンティア事業小松地区協議会を通じて、管内すべての小・中学校に配布する。
- ・本町の学校教育研究会会員研修会（町内全小中学校の全教職員参加）においてフロンティア事業の研究成果を報告する。（2月）
- ・川北中学校ホームページにおいて本校の研究実践について紹介していく予定。  
（<http://www.incl.ne.jp/kawakita/index.htm>）
- ・授業参観や、各種懇談会、学校からのお便りなど機会をとらえて、保護者の方に実践をお知らせする。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |                           |                             |           |             |
|----------------------|---------------------------|-----------------------------|-----------|-------------|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校                | ・14年度からの新規校                 |           |             |
| 【学校規模】               | 3学級以下<br>7～9学級<br>13～15学級 | ・4～6学級<br>10～12学級<br>16学級以上 |           |             |
| 【指導体制】               | ・少人数指導<br>その他             | ・T.Tによる指導                   |           |             |
| 【研究教科】               | ・国語<br>・外国語<br>・保健体育      | ・社会<br>音楽<br>その他            | ・数学<br>美術 | ・理科<br>技術家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |                           | ・有                          | 無         |             |